

かった。伝統に逆らい、自分の思い通りの教育をやつてのけた。義兄に聞いた話であるが、何十年も昔、城南高校野球部に一人の投手がいた。今はそうではないらしいが、当時城南高校は県下屈指の進学校であった。当然野球部もそれほど強くなかったが、たまたま勝ち進んでいったらしい。毎試合彼は投げ続けた。それ以上投げると肘を壊す、と言われながらも投げ続けた。結局彼は肘を壊し、それ以後投げられなくなったそうである。名前は知らない。真偽も疑わしい。でも、思い通りにカー杯やり切ったという達成感こそあれ、決して後悔はなかったと思う。私自身高専在学中に、1年間休学して自転車で日本一周を実行しようとして挫折した経験がある。後悔の念が払しょくできず、もやもやした気持ちはずっと感じていたので、定年後暇になった時にすぐに実行計画を立てた。半世紀経つての再チャレンジである。明確な目的なんてなく、ましてや人のためになるはずもない。ただ走ってみたかっただけである。友人からは「膝を痛めて車椅子生活になる」「事故で死ぬぞ」と脅かされたが、何とかやり終えた。達成感が何ともいえず、その後の生活にいかん支えになっていることか。「やったことの後悔」は諦めがつくが「やらない後悔」は我慢がならない。そのことをこの映画はしっかりと訴えている。キーティングも学校を追われたものの、やることをやった、という満足感や達成感で決して後悔はなかったはずだ。そしてラストシーン。キーティングのその思いをさらに決定づける事件が起こる。亡くなったニールと同室で、やさしい彼の人柄に直接接触れ、キーティングに心を開いてもらったトッドが、まさに自分のやりたいこと、いや、やらなければならないと感じたことを、素直に、かつ勇気をもって、まさに「いまを生きる」ことを実行する。それが何かは書かない。何度見ても涙が止まらない大感動のラストシーンである。

### 「楢山節考」 1983年

今村昌平監督 緒形 拳 坂本スミ子

フランスカンヌ国際映画祭の大本命「戦場のメリークリスマス」を差し置いてパルム・ドールを受賞した名作である。1958年に木下恵介監督が同名の作品を作っているが、セットが貧弱で舞台劇のようなイメージである。それに較べて、この今村版は3年もの長い期間をかけ、長野県の雪深い寒村を舞台にしてオールロケで撮られている。スケールが全く違う。一般的には「姥捨て山」として知られているが、それだけではなく、人間の「生」と「死」を真正面から見つめた、あるいは再認識させる映画である。「いまを生きる」の「死」とは、ニールが父親との関係がうまくいかず、悩みに悩んだ末に選んだ結果である。自分の思い通りに生きたい、自分の人生とはどうあるべきか、とあまりにも人間的（考えることができる、という点で）な死であった。一方、こちらの「死」は、自然現象として当然あるべくしてあるもの、というとらえ方で、ニールの死と

は対極にある。カットの合間にたくさんの動物の生きている姿が挿入されている。蛇、カエル、タヌキ、フクロウ……。そしてその場面はほとんど、交尾の場面か、食うか食われるか、の自然の姿である。人間も動物である。ほんの少し前まで、社会から隔絶された自給自足の生活がほとんどだった。人間、人間と偉そうに言うな、実態は動物と全く同じではないか。今村監督は、そういう事実を改めて突きつけている。動物とは何か。食って生きて子孫を残すもの。そのことは本能として遺伝子に刻み込まれている。この映画は「生」と「死」の物語であるが「性」と「食」の物語でもある。

冒頭から残酷な場面に驚かされる。田んぼの片隅に生まれたばかりの赤子が捨てられているのである。一応「誰が捨てた？」と話題にはなるが、当の本人は「口が増えても食う物が無いから捨てた」と悪びれた様子もなく説明して、それで終わりである。まるで犬や猫を捨てる感覚である。周りから非難の声が上がるでもなく、当人にもまるで悲哀とか反省の色も全くない。昔から「間引き」があったということは知っているが、母親は悩み苦しみ、そして苦しんだに違いない、と思っていたが、そんな気配は全くない。70歳になると口減らしのために山に捨てられる、こんな理不尽なことがあっていいのか、というのがこの映画のテーマであろう、と前知識はあったが、よくよく考えると「姥捨て山」も「間引き」も、時期が、終わりの時と初めの時と両端であるだけで、本質は全く同じことである。むしろ、意識が芽生える前に消される、ということのほうが、本人にとっては幸せではないか、というバカげた考えも浮かんでしまう。ちょっと横道に入るが、殺人とは人の命を絶つことで絶対に許せないことであるが、人はいつから人と認められるのだろうか。生まれ落ちた時は間違いなく人である。それでは胎児はどうだろうか。受精した瞬間に命を吹き込まれた、と解釈すれば間違いなく人であろう。そうであれば、卵子や精子は命のもとであり、それらを無駄に捨てる、ということは殺人と言えないか。実際は妊娠期間をその区切りの基準にしているようだが、説得性はない。本人に意識が芽生えた時点を区切りとすれば、という気もするが、区切りようがない。いずれにしても、あまりにも微妙過ぎる問題であり正解はないかもしれない。変な話は終えて元に戻る。鷹は時期をずらして卵を産む。食料が十分なら雛はすべて育つが、少ない時は力の弱い若い雛から順に死んで兄たちのエサになってしまうという。しかし、雛全部が飢えて死んでしまう、という最悪の事態は避けられる可能性が高まる。ネズミの一種レミングは個体数が増えると一斉に北に向かって突っ走り、断崖から北極海に身を投げ大多数が死んでしまう。集団に参加しなかった一部は生き残り、また繁殖は始まる。両方とも種族を残すために自然が創ったからくりである。人間も動物であり、そのからくり縛られていても当然、と考えることもできる。しかし、やはりそれでも、そんなことは人間のすること

ではない、という考えもあるし、私自身もそう思う。ただ、この映画の舞台をもう一度考えてみよう。冬には大雪に閉ざされ、わずかの田畑を耕して生計を立てている、せいぜい数十人の部落である。すべて自給自足であり何事もすべて自分で作らなくてはならず、無いものは我慢するしかない。言い換えれば、とにかく時間に追われ、なんとかして生き続ける、という思いしか持てなかつただろう。学校なんてあるわけないし、どうしたら生活を改善することができるだろうか、なんて高尚な考えなんて思いつくはずもない。繰り返すが、生きること、つまり食べることが精一杯で、動物のように何も考えられずのたうちまわりながら毎日を過ごすしかなかった。時代はいつか分からないが、江戸時代以前は何百年何千年も同じような状況が続いていたのだろう。GDPは全く増加せず生活の発展は一切なかつただろう。古代ギリシャやローマ、あるいは日本でも古代から学問や芸術、技術の発展はあった。思想の発展もあった。しかし、その背景には奴隷たちが働き、社会の上層部の人たちには考える時間が生まれた。この余裕が社会の発展には絶対の必要条件であり、それが無いほとんどの地域はこの映画の舞台と似たり寄ったりであつたろう。そして、「死」とは何か、「人間の尊厳」とは何か、という概念そのものも考える余裕さえなかつたのだろう。

一方、どんな環境下でも食欲と同様、性欲は健在である。動物たちや人間のセックス場面満載である。ただ、陰湿なイメージは全くなく、何もかも開けっぴろげである。せまいすきまだらけの住居では夫婦の営みは家族に筒抜けだし、天気がいい日には青空のもとで男も女も喜んで戯れる。亭主の死んだ後家さんは、慈善事業で嫁を持ってない次男三男らの若者を毎日順番に寝床に呼ぶ。こんなことは十分ありだな、と妙に納得してしまう。詳細はあえて書かないが、最後の方に、嘔き出してしまいそうな場面もあり、楽しんでほしい。どんなに苦しくてもセックスの喜びは万人共通だ。種族を絶滅させない、という大命題を実践できるように、食欲と共に性欲もしっかり定着させた進化のシステムには驚愕するしかない。ここまでの解説では、人間も動物も同じ、厳しいけれどもある種のどかな映画、というイメージを感じるかも知れないが、人間特有の残酷さもはっきり仕込まれている。それがこの映画の核心かも知れない。



生きるために最も必要なものは食料である。食べることだけがこの部落の人々の目的である。食料は常に足りない状況である。だからこそ、その価値あるものを盗もうとたくらむ人も出てくる。ましてや、間引きせず子だくさんの家庭ではなおさらである。しかし何かの機会に盗みはばれる。村人たちはどうするか。なんと、その家族を全員生き埋めにして殺してしまうのである。動物は決してこういうことはしない。メスを選ぶときには多少の戦いをするが、弱者は負けを認めるとすぐ引き下がり、強者も追撃は加えない。その結果、優良で良質なDNAが引き継がれていく。餌を横取りすることはあっても、それは仕方のないことであり仕返しで相手を抹殺することもない。しかし、人間の場合はしっかりと将来の予測をすることができるから、とんでもないことを考え実行する。生き埋めの場面は壮絶である。将来の危険性があるので血筋まで断ってしまう、という思惑で、女も子供も問答無用で、何の躊躇もなく、泣き叫ぶ声を聴きながら埋めて殺してしまうのである。要するに、村を守り全員が存続していくためには殺人と言った凶悪犯罪も当たり前に行事なのである。老人殺し、赤子殺しが必要な社会ではむしろ当然なのだろう。そして、決行の前には村人たちが集まって全員の意見を集約する。いわば多数決という民主主義に基づいて行動されている。もちろん背景には、村の憲法ともいべき「掟」があり、結果的にはそれが村の秩序を保っているともいえる。しかし、警察もなければ当然裁判所もない。村のリーダーらしき老人がいるだけである。考えてみれば実に恐ろしいことである。誤解があつたとしても、つまり冤罪だつたとしても、その時の村人の多数の考えが一致したら殺されてしまうこともあるのである。ただ、この恐怖は現在の豊かな社会でもしっかりと根を張っている。明確な意見も持たず、時流に流されて、今のままでいいや、とばかり現状を肯定すると本来の正義は埋もれてしまう。昔の人たちが血みどろになって勝ち取ってきた選挙権をなぜ行使しないのだろうか。本来の民主主義にとって、少数意見の尊重、ということとは絶対条件である。海外からの難民や宗教被害者など一部の弱者の意見を聞かない、あるいは、まともな議論もないまま原発推進や防衛力強化がなし崩しに進められていく。「檀山節考」の舞台と同じ状態ではないのだろうか。

さて、とうとう坂本スミ子演じるおりんが山に向かう時期になる。70歳にもなったのに歯が丈夫だと孫に言われ、前歯を石にぶち当てて折ってしまう場面は圧巻である。無い歯を有るように見せることは可能であるが、その逆は難しい。そのために彼女は歯医者で正常な前歯4本を抜いて撮影に臨んだようである。この執念は恐いくらいだ。それほどこの映画に入れ込んだ、ということだろう。村の掟をしっかりと認識しているおりんは泰然として、緒形拳演じる長男辰平に負われて山に向かう。最後の場面であるがこの行程がもう一つの山場だろう。晩秋の山を歩き続ける。到着した墓場には骸骨が風にさらされている。本物の人骨を

何十体も準備したようだ。カラスが飛び交い鬼気迫る場面である。おりんは辰平の勤める握り飯も受け取らず、むしろの上に正座し、手を合わせる。微動だにしない。覚悟を決めた。雪が降ってきた。辰平は掟通り振り返ることなく帰途につく。

私は今 75 歳。この山村に生まれていたらとつくに山送りになっていたはずだ。こんな残酷な時代、こんなひどい所に生まれなくて良かった。みんなもそう思うだろう。しかし、そうだろうか。今から過去を見るとそう思う。しかし、あの時代あの場所で、生きるために食べるだけの極限状態ともいえる生活の中で、自分の境遇がいかに悪いのか、と嘆いただろうか。繰り返しになるが、そんなことを考える余裕など無かったのではないか。私の父方の祖父は脳血管障害で倒れ、いわゆる「中風」になって、薄暗い物置に放置されていた。まだ幼稚園の頃ではっきりした記憶はないが、家族には迷惑がられ、ただ死を待つだけのみじめな姿だったことは覚えている。わずか 2 世代前の話である。医者にもかからず、死んでいくのを本人も家族も待っているだけというのは、姥捨て山と同じようなものではないか。そして、そのことはずっと以前から続いていた当たり前のことであり、社会は半ば認めていたようで問題視す

ることも全くなかった。習慣とは極めて根強く、それに異を唱えることも極めて困難ということも改めて思う。さらに想いを巡らすと、動物も人間も生きているものは必ず死ぬ。私もあなたもいつかは必ず死ぬ。これは、言わば絶対に逃れない宿命のようなもので、よくよく考えるとこれほど公平なことはない。別の視点から見ると、死を繰り返すことによって世代交代が行われ、進化は進んだ。このことをしっかり受け止めると、死ぬことは仕方がないこと、むしろ称賛されるべきことと諦観めいた気にもなり、死に対する恐怖心も薄らぐ気にもなる。死んで行く人より生きている人の生活が大切だ、ということも常々考えていることであり、ならば死ぬ時期が少々早くなっても、社会や家族に迷惑をかけないことのほうが正義なのではないか、と楢山節考の世界を肯定するとんでもない結論に行き着いてしまう。絶対にこの考えは間違っているはずだが…。読者の皆さんはどう思うだろうか。

辰平は母親への思いが捨てきれず、掟を破り、捨てた母親のもとへ駆け戻る。しっかりと抱き合った後、辰平は再びその場を静かに去っていく。最後の最後になって、動物とは全く違う人間の姿を見た気持ちになる。雪は深々と降り続く。



## 赤い手帖 (33)

昭和45年度電気 森田 虔児

「悠久」関東支部長から、今月末（10月28日）の同窓会開催案内が届いたので、5年振りに出席する旨の回答をした。まず床屋にでも行って置こうと、所謂「千円カット」の店に行くと、「10月から値上げしました」の張り紙があった。ついこの前に1,100円になった後、更に（シニア割引なしの）一律1,200円になった記憶があったが、今月からはなんと1,350円との事である。物価変動が右肩上がりとなるのには、すっかり慣らされた昨今である。

昔話で恐縮だが、新入社員時代に住んだ独身寮から最寄りの国鉄駅までのバス料金は30円だった。それが社員寮を出る頃には、いつの間にか210円程になっていた。少し遡った学生時代には、見能林駅から富岡（現・阿南）駅までの交通料金は、確か国鉄の汽車で20円、徳島バスで15円であった。卒業した2期生の先輩に頼まれて引き継いだ、家庭教師のアルバイトのため、4年生の時に毎週、学生寮から富岡の街まで通った時期があった。現在の感覚では、それほど贅沢とは思えない、その僅かな交通費を俵

やく約したい日には、寮の自転車を拝借したり、富岡まで徒歩で向かう事であった。

例年になく真夏日が続いた、今年の9月もようやく過ぎ、10月初めに、同居している孫達と三浦半島の遊園地に出掛けた。流石に3連休とあって、どの有料イベントや遊具にも長い待ち行列が出来ていた。最初に乗せた観覧車の写真を、地上から離れて撮るために、ゴンドラの識別表示を確認すると16番となっていた。その次に、牧場を周回するゴーカートに乗せたところ、上の孫の車両が1番で、下の孫の方は6番であった。トランポリンやアスレチック広場でも遊んだあと、やや遅めの昼食に野外バーベキュー施設を予約した。そこで指定されたテーブル番号は16番であった。夕方になって遊園地をあとにし、これまでも何度か利用したことのある、三浦海岸のリゾートホテルに着いた。案内された部屋は7階の16号室になっていた。翌朝のチェックアウトに先立ち、フロントから拝借した台車（カート）の番号をよく見ると、こちらは何と「16」であった。かかる数値の符号が一気に続いたことは、これまでの人生では経験がなく、おそらく今後もないだろうと思える偶然である。

つい最近のことであるが、孫と同じ登校班に属する児童

の若いお母さんから、「数日分の古新聞を分けて貰えないか」と声を掛けられた。何でも、小学校で授業の工作に使用するとので気軽に応じた。考えてみれば、最近ご近所に新築で引越して来た、小さい子供の居る5軒ばかりの家庭に、朝夕に新聞配達が回っている気配は皆無である。10年ほど前から、小生個人には家や車のローンがない。また、自動車保険・火災保険の類も家内と息子の名義に切り替え済みである。次のささやかな終活項目は、新聞購読契約の停止や固定電話の解約かなと思いつ始めている。先月は、車の運転免許証の更新に出掛けた。優良運転者（ゴールド免許証）であっても、70歳を超えている場合の免許証の有効期間は、5年ではなく3年になるらしい。更に75歳以降での更新時には、「認知機能検査」が加わる事になっている。高齢に進むに従い、運転免許の維持に必要な、お金と手間が増えて行く仕組のようである。

さて、若い時分からずっと気になる言葉が幾つかある。例えば「風光る」と「風薫る」の二つの言葉である。旧暦月と現在の季節感とのズレに相まって、俳句などを嗜む訳でもない自身の主観からは、いずれが早春・晩春ないし初夏・盛夏・晩夏に相応しいのかの判断に迷うことがある。そして、先進国と言われる米欧等の邦々の人達の日常にも、かように風の煌めきを慈しんだり、風の梵を称えたりする類の、風物への気遣いや習いが有るのかなど、ふと思いをいたす。これら「風流」に関わる言葉の背景には、偏に温帯気候の多湿地域に位置する、我が国の特質があるのであろう。

風といえは、「偏西風」や「貿易風」がなぜ地球の自転と同方向や逆方向に吹くのかということも、実は昔から気掛かりだった。昨今では、低学年の小学生でも、疑問を持った際にネットで検索すれば、下手な大人の解説を待つまでもなく、エルニーニョ現象やラニーニャ現象までを含めた教示が、直ちに得られる便利な時代となっている。序の地球規模の話題としては、温暖化により、温帯や亜熱帯付近の海域に生息していた大型生物がどんどん北上し、緯度の高い海域の貴重生物を駆逐する事態になりつつあるらしい。また、北極海域の氷の融解も進行しており、北極を棲み処とする、いわゆる「白くま」が、餌探しだけでなく、生存環境自体に難儀し始めている様子である。この「白くま」は、表面が透明の毛に覆われているので、光の加減で白く見えるが、元々の体表は黒色だとも聞く。白い雪原の氷が融け、平凡な「黒くま」になってしまうとなれば、些が観たくない光景である。

自分が小学一年生の時の担任であった先生の嫁ぎ先も、以前から気掛かりな事のひとつであった。今年の春先、設備の充実した温水プールが屋内・屋外双方にある、県西部

のヒルトンホテルに、孫達の希望で泊まりに出掛けた。彼らをプールに送ったあと、たまたま人気の無かった時間帯に、ホテル二階のラウンジで、家内とコーヒーを飲んでいて、書棚でふと目に留まった「現代人名録」を開き、「佐藤高明」の項を探してみた。何故なら、一年生の時の担任の先生が「さとう」という人とお見合いで結婚したという、幼い頃の微かな記憶があったからである。その人名録で、高明先生ご本人は検索できたが、従来の「紳士録」ではよく記載されていた、配偶者に関する記述はなかった。然しながら小生は、嘗ての担任の先生が、田舎の旧家で育った教育のある女性だという理由だけではなく、彼女が夏目漱石の「三部作」に登場するヒロインと同じ呼び名である事から、当時のお見合いの相手が佐藤高明先生であったならば、その担任の女の先生の事を必ず気に入る筈だ、という思い込みを、高専卒業後に持ち始めていたのである。

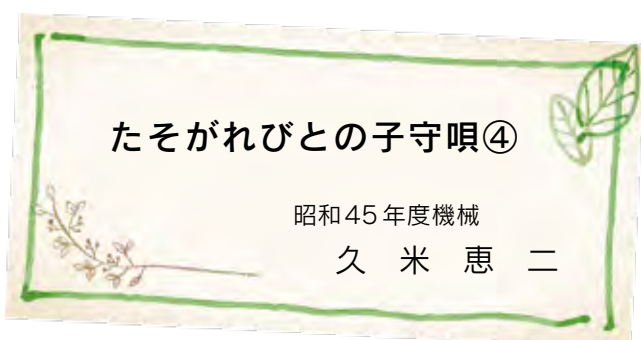
自分は、「古い先が短い」と切実に思うほどの年齢には達していないが、矢張り気になる事は、ひとつずつ今のうちにクリアにして置きたいと、その旅行の何日かのちに、人名録に記載されていた高明先生のお宅に、図々しく電話を掛けてみたのである。多少は、一社会人としての逡巡があったが、ずっと気になっていた事を確認したい思いが優った訳である。勿論、電話番号自体が無効の恐れもあり、また年齢的に高明先生自身をご存命の可能性は固より少ないのは承知であった。幸いに電話が繋がったので、佐藤家の次世代のどなたかが電話口で対応されたものと想像し、「昭和41年に高明先生に教えて戴いた高専の卒業生ですが」と名乗ったあと、「いきなりつかぬことを伺いますが、高明先生の奥様は何というお名前でしょうか」と、無遠慮を承知で尋ねると、果たして期待通りのファーストネームであった。念のため、奥様の旧姓を伺うと、まさに小学一年生の時の担任の先生のお名前と一致したのである。そこで続けて、「私は小学校一年生で担任戴いた…」と自分の苗字を言いかけると、「あら、Kちゃん」と、すかさず応答があり、電話口の方が昔の恩師その人であると判った。65年前に一年間教わっただけの児童の、当時の愛称を良く覚えておられる事にまず驚いた。従って、その会話の間には、壺井栄風に言うと、独身最後の退職した年に担任したクラスの、児童みんなの印象を、「七十四の瞳」として強く記憶して戴いていたのだと勝手に推察した。ところが、奥様のお話では、結婚後も徳島市内で更に10年近くを、そして高明先生が「教科書主任調査官」として文部省に転出された後も、東京都内で20年以上にわたり、教職を続けておられたとの事であった。即ち、小学校の教員として、ご定年までに担任された児童数は合わせて2,000人ほどに及ぶ訳である。65年振りの教え子からの思い掛けない電話に反応し、今年で94歳になられたという恩師が、直ちに小生のニックネーム（愛称）を思い出して頂け

るとは、只管ひたすらの感激であった。

恩師にとって、小生が印象的な児童であったとすれば、もしかして、NHKのラジオ放送に、小学校一年生で出演した事くらいかと思う。昭和28年に全国放送が開始されたばかりの、テレビにはまだ馴染みが薄い時代で、当時TV受像機を備えた家庭も稀まれであった。一方、1928年に全国放送が開始されたラジオ放送では、教育関連番組として定着していた「声くらべ腕くらべ子供音楽会」というのがあった。その巡回収録で、小生は予備審査を通過し、全国放送の電波に乗ったという訳である。

その後、奥様うかがにお伺いした話では、再来年に、ご親族が佐藤高明先生の13回忌に集う際に、「生誕100年祭」も併せて執り行う予定とのことである。実は、我々が高専で受講していた頃の高明先生は、後撰和歌集を始めとする古典文学の研究に関する学位論文の執筆が重なり、ご多忙であったためか、受け持ち時間の半分近くを、「課題を与えて自習」とする時期が続いたことがあった。工学系の学生

故ゆえに、それを気にする面々は居なかったようである。ただし、母校を3年次に中退し、東大法学部に進んで弁護士となった同じクラスの播磨政明君や、同じく3年で中退して医学部に転じた別の2名のクラスメイト達は、当時の授業に関して、如何なる感想を持っていたか、やや気になるところではある。その高明先生は軽口話いかが得意で、折に触れ「月給泥棒」という言葉も出たが、それは多分に自虐的な意味合いで用いられていたのかと思う。そんな講義の日々であったが、三好達治や村野四郎などの詩の解釈には、今も心に残るものがある。創立50年を超えた母校の、最近の卒業生にとって、件の佐藤高明先生は全く馴染みがないのは当然であるが、4期生の久米恵二君や坂野（西條）義昭君が、ときどき「悠久」への投稿で高明先生に触れているので、その都度懐かしく思われる諸先輩方もおありかと想像する。小生自身は、TBSテレビの「世界・ふしぎ発見!」で、かつてレギュラー解答者だった（同郷でもある）「板東英二」を観る度に、佐藤高明先生に何だか風貌ふうぼうが似ているなあ、と思い出していたものである。



### ① 悠久

森田公一とトップギャランが歌っていた。「青春時代が夢なんて、あとからほのほの想うもの、青春時代の真ん中は道に迷っているばかり」。心打たれる歌詞で今でも、あの時が甦ってくる。

同期のY君が、「悠久」を送ってもらうには、どうしたらいいのかと言っている。というのも彼は4年で中退しており、悠久が家に届くことがない。同期会で会誌の話が出ると、いつも気にかかっていたようだ。1年であろうと、4年であろうと、5年で卒業しよう、15歳から過ごした高専時代は、阿南高専に入学した人すべての青春時代だったと思う。

70を過ぎた今、昨日のことは忘れても、50数年前のことは鮮明に覚えている。酒の席で一番盛りあがるのが先生の話。谷やん（谷山先生・体育）、エベツさん（戎谷先生・化学）、宮岡はん（宮岡先生・英語）、シンペイはん（佐

藤慎平先生・熱力学）、ヤング（外山 実先生・数学）、オールド（外山邦宗先生・機械力学）、テラロッサ（寺戸先生・地理）などなどあげればキリがない。それぞれの先生が恰好の酒の肴になっている。

### ② 災 難

軽トラの荷台から降りようとしたが、積んでいたホースが足にひっかかり、肩から落ちた。若いときなら腕がすぐ出て支えることができたはずだが、残念ながらそれができず肩を打った。病院に行くほどのことでもなかったが、今でも腕が自由に曲がらない。背中をかくときは「孫の手」を借りるようになった。

3月の末には、準備運動もせず、ゴルフ場でいきなりドライバーを振りまわしたら、腰に激痛が走った。今まで腰を痛めたことがなかったので、甘くみていたようだ。4月、5月はゴルフを断念した。また耕運機も使えないので夏野菜の苗植え、種まきもできなかった。

### ③ 第13回 高専悠久ゴルフ大会

11月18日に御所カントリーで約50人が参加して行われた。寒波が通ったためか、雨と雪混じりで指も動かず、せつかくの大会は前半だけで終了してしまった。

1期生の参加が高橋さん、林さん、藤倉さんの3人だったので、それに近い私が同組にまわされたようだ。御所カントリーのローカルルールでは76才以上の人が一番前か

ら打てるようになってきている。1期生は76才なので当然だが、73才の私はひとつ手前から打たなければならない。ところが高橋さんが「76も73も一緒じゃ！」と気を配ってくれ、その言葉に甘えることにした。キヨリは短く、いいスコアが出そうな予感がしたが、あがってみれば53で何もかわらなかった。

④ 阪神タイガースと岡田監督

今さら書くのもおこがましいが、阪神タイガースが38年ぶりに日本一になった。主力メンバーは入団数年目の若い人が多いのだが、岡田監督にかわったとたん開幕から猛ダッシュで、危なげなく早々とセ・リーグ優勝を決めた。そしてオリックスとの日本シリーズでは、お互い3勝ずつともつれたが、最終戦は不思議に敗ける気がしなかった。予定通り勝ったという感じだった。

今年の流行語大賞はまだ決まっていないが、岡田監督の「アレ」になるのでは。アレは日本語として、とても優秀な言葉だと思う。「あれ、どうする」「あれ、もってこい」

「あれ、したらあかん」。その時の状況で「アレ」の意味が理解できる万能語でもある。

さて、来年はどうなるかだ。まず優勝はまちがいない。「野球はピッチャー」という言葉がある通り、阪神は投手陣が揃いすぎている。その上若い。しばらくは阪神の黄金期が続くものと確信している。

⑤ 10年日記

今年で3冊目がおわることになった。学生時代から日記はつけていたが、ほとんど三日坊主で中断をくりかえしていたが、43才のとき、ひよんなことから「10年日記」を買うことになった。はじめのうちは、カッコウつけて高尚な文にしようとしたためか、書くのが苦痛でもあった。しかし書いているうちに、だんだんと肩の力がぬけたのか、書かなければ気持ちわるいようになった。毎朝顔を洗い、歯もみがくのと一緒になったということだ。できればあと2冊は書きたいと思っている。



優先席

年を取ってきたせいか、最近、バス、列車に乗るとこの席が空いているかどうか気になる。今までは「老人」「乳幼児」に一般席を譲ってきたが、私も73歳。もう譲られてもいい年齢になってきた。赤の他人に何歳ですかと聞かれたことはないのだが、自分ではまだまだ若いと思っているから、譲られても断るつもり。しかし、まだ誰も席を譲ってくれたことはない。この席はいくら空いても若者は座りにくいし、私の年齢でも一般席が空いている限り座らない。いや、「世間の目が気になり」座りにくいのである。結構混んでいても我々も座らないし、結構空いていることが多い。

今年の6月頃に面白いツイッターがあった。ジョージアの日本大使が電車に乗った折、空いている席に座り、本を読んでいる自分の写真をツイッターに載せた。それは一般席も空いているような状態であったが、大使が座った席がたまたま優先席であったため、「空いてるなら、わざわざ優先座席に座らなくてもいいんじゃないかな?」「そこは

優先席ですよ」などと指摘するコメントがたくさん寄せられたのである。

それに対し、大使のコメントが素晴らしい。「私が言うのもなんですが、理屈のない不要な圧力は、生きづらい社会になるためやめましょう。空いている席に座ることに何ら問題はありません。大切なのは、必要とする方が来た時に率先して譲る精神です。」「何なら、私の妻は、妊娠中や乳幼児を連れていいるときに、優先席を譲られた経験は一度もありません（私見：これは日本でそんなことないだろうと反論します。一般席でも譲っている姿をよく見ています。もし、本当に一度も譲られたことがないのが事実なら本当にSorryですが…）。だから、優先席に座っていることで、誰にも迷惑をかけていない私が注意される理由は理解できません」と。さらに「人間として“当たり前”である他人に気を配ることができずに、変な社会のルールを押し付けるような、無機質な考えを私は正しいとは思いません」と返事している。

この大使は親日的な日本通である。この意見に対しての反論・非難の投稿は「木を見て森を見ず」の議論だと切り捨てる。そして、それは、「対象でない人が優先席に座ってはならない」という意見に対して、議論はさらに進んでいく。「優先席の全てが優先席を必要とする人達によって埋まり、体が不自由な方や、妊娠中の人や乳幼児を連れた方が座れない状況が発生したとします。それは普通にありうることです。すると、優先席を一般の方が使ってはいけないという論理で考えると、このような状況を考慮し、（優先席に座るべき人は）一般座席に座るこ

とさえ慎むべきでしょうか。そうはならないでしょう」と指摘。「暗黙的にルールや暗黙の了解を行動の指針にしていたら、このような応用の状況に対応できなくなってしまい、それこそ私は恐れます。なぜなら、ルールということだけで動いていたなら、視野が狭くなり、一般の席に座った時に、自分以上に必要とする人がいることが見えなくなるからです」と。

「優先席ありきではなく、しっかりと譲り合いの精神を携えていれば、そのような状況にも対応できます。そもそも、そのような共生社会における人間本来の優しさを促進させるためにこそ優先席はつくられたのではないのでしょうか」と、優先席という言葉だけにとらわれず、本質を見極めることが大切と。そして、このようなことを実践できていれば、「優先席は、その場の判断で使っている」と。「そして、一般席だって“譲りますよ”“譲ってもらいます。ありがとう”の会話が生まれる。そのような社会に近づけていけるのではないかと」。

なるほど、面白いツイッターの議論でした。日本人の私からすると、もし優先席に座る資格のない人が座っていて、ほかの人から非難されたいやだから座ってこなかっただけで、この共生社会の譲り合いの精神を持って生きてきている。しかし、日本人の几帳面な精神が、言葉にとらわれ、物の本質を忘れ、過剰に反応してきたところもある。これを反省さえすればいい。

どんな席でも、徹夜で眠かったり、疲労困憊の状態であったり、体調が悪かったりしていれば、遠慮なく、座りたいときには遠慮しないで座り、自分より座ることが必要な人を見れば積極的に席を譲ってこよう。「優先席」はもういらぬのではないかとさえ思う。あるいは全席優先席にすればいい。

この席を「シルバー・シート」と書いてあるシートを時々見かけるが、このネーミングだけは勘弁願いたい…。

## 白百合

東京にはこのような名前のキリスト教系の女子大学がある。当然、私には全くの無縁であり、行ったこともないし、知り合いもない。花の名前の学校とは珍しい。

今も栽培しているかどうか知らないが、石井町には昔からこの花を栽培して京阪神に出荷して生業にしている人がいた。別名テッポウユリで、元々は沖縄・奄美に自生する亜熱帯性の植物で、その球根を沖永良部島より石井町に持ち込んだ。徳島は比較的温暖なので、温室栽培すれば、一年中栽培し出荷できたらしい。

真っ直ぐに立った莖に、柄のない葉が直接にこれを取り囲み、莖の頂が花莖に分かれて数個の花がついている。花は花莖から直角に曲がって横を向き、六つの純白の花弁がラッパ上に開き、その基部が筒状になっているので鉄砲百合とも呼ばれている。花は花莖の先に行くほど未熟で、淡緑色の蕾が横向きになっている姿は、ちょうど白鳥が長い

首を伸ばしているように見え、花弁には斑点も模様もなく、純白で、清楚という言葉がぴったりである。

キリストが、「ソロモンの栄華でさえも、その清楚な装いのこの花一つにも及ばないものだ」と称賛した。以来、キリスト教では、この白百合を聖母にささげられた花として、ルネサンス期の宗教画によく描かれている。花が、純白で、清楚なのがいいのである。

イタリアのフィレンツェに有名なウフィツィ美術館がある。ポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」「春」の他にレオナルド・ダ・ヴィンチの「受胎告知」がある。天使ガブリエルは右手でピースサイン（Vサイン）をし、前に膝間づく聖母マリアへの祝福の意を表し、左手で聖母マリアの純潔の象徴である「白百合」を捧げている。他にも「受胎告知」の絵は、ミケランジェロ作のローマのシスチーナ礼拝堂、倉敷の大原美術館にもエル・グレコの作品をはじめ世界各地に描かれている。ただ一つ、イタリアのローマとフィレンツェの間にあるシエナで描かれたシモーネマルチーニの作品では聖母マリアは白百合ではなく、オリーブを持った姿である。当時、シエナとフィレンツェは対立しており、シエナの「受胎告知」の絵は、敵対するフィレンツェの市の花である白百合で描かず、オリーブにした。受胎告知の絵では唯一の絵だ。これはオリーブの花言葉「平和」「知恵」「幸せを呼ぶ」に「清楚」の意味を加えたことになる。確かに、オリーブの小さくて可憐な白い花は「清楚」の花言葉の候補の一つだ。しかも解釈が新しい。しかし、やがて、フィレンツェのメチチチ家がこの二つの街を支配し、破棄されることなく、今は両方の絵がフィレンツェのウフィツィ美術館にある。身近には鳴門の大塚国際美術館でもこの両方の絵が観られる。

白百合の花言葉は、「貞節、純潔」。コロナがだいぶ落ち着いてきて、急に同窓生が懐かしくなり、同窓会が開かれたという話をよく聞く。ミニ同窓会を続ける悪友たちとの話も、大きな同窓会が待ち遠しい、あの時、なんだかんだであったとの、昔話に花が咲く。

かつて、ベツツイ&クリスが歌った、北山 修作詞、加藤和彦作曲の「白い色は恋人の色」のヒット曲がある。若い人はお父さん、お母さんに聞くといい。きっと知っていると思う。

「花びらの白い色は恋人の色 なつかしい白百合は恋人の色 ふるさとのあの人の あの人の足もとに咲く 花びらの白い色は恋人の色」

同級生、他の学年、ほかの学校のあこがれ続けたマドンナは今どうしているのか？

不思議と、めとったという話はあまり聞かない。白百合は、聖母マリアだけでなく恋人もイメージに加わったが、私も含め悪友連中にとって、白百合は「恋人」のイメージではなく、永遠の花である。永遠に成就しない儂いものである。淡い青春時代の思い出がかすかな記憶の中にあふれる。花言葉にも「永遠のあこがれ」を付け加える。

### 阿波踊り

徳島市の阿波踊りは合計 24 日踊った。練習もせずの参加だが、勝手な踊りでも非常に楽しかったのを覚えている。「手を挙げて、足を運べば阿波踊り」レベルの踊る阿呆であったが、最近は専ら鳴門市の阿波踊りを見る阿呆。

この阿波踊りの天敵が雨である。今年の阿波踊りも豪雨の中開催し、賛否両論の渦に巻き込まれた。土砂降りの雨で観客、踊り子は少なかったが、切符はすでに売れ、払い戻しをしなかったから興業的には黒字であったとか。まるで、詐欺行為一歩手前で恥ずかしい限りであるが…。心待ちにしている人が多いので、本当にこの時期は暑くても晴天が続く事を祈る。以前は8月15日から18日までの「盆踊り」であったが、後半台風などで中止に追い込まれることが多かったので、踊り期間を早くした。しかし、時々今年のようなことが起こる。自然は阿波踊りに合わせてくれず、気まぐれである。

去年は、阿波踊りを久しぶりに徳島に出て、栈敷で見た。観客は3割にも満たず、ポツポツと観客がいる程度で、コロナの感染は全く心配なかった。踊り広場や混雑する街路、飲み屋に友人と繰り出したりして感染者が大勢出たようだが…。

最近は連ごとに踊りが統一され、個人の個性より連とし

ての演出が見事である。連の「個性」が出ているが、奴さんが阿波踊りの中に組み込まれたり、女性が飛び跳ねたり、大きく足を挙げて踊る様には、昔のしとやかな阿波女の面影は見られない。この踊りはさらに進化していきだろう。しかし、一つ少し気になることがあった。ほとんど、鉦（かね）と大太鼓の音しか聞こえないのである。阿波踊りには、お囃子として、鉦、大太鼓の他に、笛、小太鼓、三味線の音色が欠かせないと思ったが、このデリケートな音がほとんど聞き難いのである。「ぞめき」は「騒ぎ」と書き、浮かれ騒ぐこと。ビートのきいた「ぞめき」のリズムで活発に踊ったり、スローモーションになったり、静止したりと、見せる阿波踊りの演出は抜群である。

しかし、阿波情緒のあふれる七、七、七、五の4句の歌詞「よしこの」節は、内容・形式は都々逸（どどいつ）に似ていて、明らかに座敷芸からのものだろう。この中の三味線、小太鼓、笛の音色が聞かれないのである。座敷由来で、修行のいる音が出ていないのである。

明らかに大きな音だけのリズムでは、「芸」がなさすぎる。「見せる阿波踊り」と共に「聞かせる阿波踊り」であってほしい。

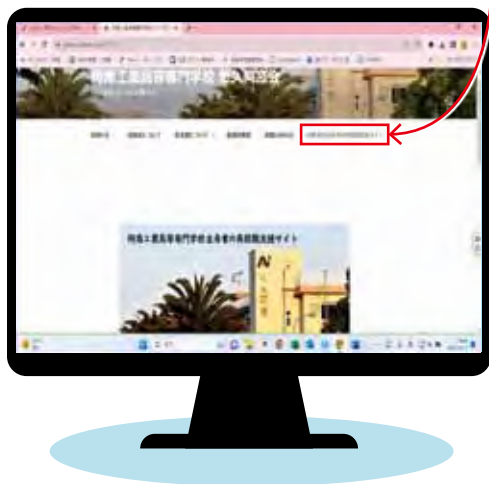
そして、夏の夜空の下で「踊る阿呆」と「見る阿呆」が町中で沸き返ることを望むものである。

よるず  
伝言板

## 悠久同窓会HP

### 県内企業就職支援サイトについてご案内

悠久同窓会 HP では、徳島県経営者協会と連携し、県内企業に就職を希望する同窓生のための就職支援サイトを開設しました。



#### 紹介までの流れ

サイト内フォームからエントリー

卒業年度や  
コースなどを登録

高専の就職担当教員から、希望者へコンタクト

高専の就職担当教員から、企業へ紹介

詳しくはHPをご確認ください。

また同サイトでは、同窓生を積極的に採用したい企業 HP へのリンク（徳島県経営者協会管理）が出ております。是非一度サイトをご覧になってみてください。



ホームページへGO!





2日目：ルーアン → ホンフルー → カン  
→ バイユー → シェルブール →



図1. ノルマンディーの地ルーアンからシェルブールへのルート

さて二日目朝は“ジャンヌ・ダルク”の美しい朝市の雰囲気味わった後、今夕の宿泊地シェルブールへと向かうのですが、そのルートは“ノルマンディー地方”を西進していきます。この呼称はよく耳にしてきました、ご存じの方も多いかと思います。ルーアンも含めるエリアから、シェルブールのあるコタンタン半島までを“ノルマンディー”地方と称しています。海岸線をセーヌ川河口ホンフルーからたどってみても、シェルブールまで約185kmあり、その間をあの上陸作戦の戦場が展開していきます。



図2. バイユーの街

・・・ ノルマンディー上陸作戦 ・・・

ノルマンディー185kmの海岸線と言いますと、あの北の脇海水浴場のビーチが約1.4kmですからその132倍の距離となり、連合国側ではその「長い海岸線のどこから攻めようか」、ドイツ側からすると、「何処に守備態勢を組むか」ということとなりますが、44年当時、ドイツとてこの西部方面のみに戦力を割くわけにいかず、対ソ連戦線の東部方面へと軍力を傾注しなければならぬ事情もありました。その結果、西部方面

への軍力はカレイの港のあるエリアに注かし、コタンタン半島への軍力は手薄状態となっていたのが実情でした（これには作戦上の裏話がある）。それ故、連合軍にとってノルマンディー海岸上陸作戦は予想以上に被害は少なく“成功”となったわけです。



図3. ノルマンディー上陸作戦図（ウィキペディアより）

なお、“ノルマンディー上陸作戦”の外、連合国では、北アフリカからイタリアへ北上した戦線もありましたが戦況は動かなかった模様。なお、戦争には諜報活動、嘘情報のバラマキはつきものですが、イギリス南部で暗躍していたドイツ諜報要員は連合国側に寝返り、そのため戦況のKeyであった上陸位置の真の情報は伝わらず、カレイ地区と並行してノルウェー上陸作戦との偽情報を故意に漏らして展開し、ドイツ軍をノルマンディー海岸線から注意をそらす事に成功した、戦果は“その結果となり”ました。



図4. ノルマンディー上陸作戦の画像群  
(バイユー戦争博物館内資料より)

このような形で戦争画像がバイユー博物館に展示されており、第二次世界大戦でのターニングポイントとなったこの上陸作戦を改めて認識したものであります。

なお、上陸作戦のビーチからこのバイユーの市街地までは約7kmという近距離です。

どれだけの日本人がこのノルマンディーのメモリアルを見たであろうか、と思うにつれ、これは一部でも画像を選択して掲示しなければと思いました。

.....

さて、バイユーで第二次世界大戦の雰囲気になってしまいましたが、今夕の宿泊地シェルブールが待っています。

町の西方面に出、やおらE46へとハンドルを切り、着くであろう夕刻をめざしアクセルを踏む。シェルブールの町の名はフランスの女優カトリーヌ・ドヌーブ主演映画「シェルブールの雨傘」で有名になっていますね。その名を知っている皆様もおられるかと思いますが、寮生時代同室で影響を受けたFさんから映画のタイトルとなったシェルブールの雨傘の音楽はミッシェル・ルグランだと聞きました。テナーサクソの、雨に煙る様な雰囲気が醸し出された音楽で、ズーッと私の脳裡に刻まれています。フランスと言えば、初めてパリに出張した晩、一人で“その様子”を見に行った“シャンゼリゼ通り”、ここを訪れようと降りた地下鉄の駅、その改札を通り、地上に出るまでの胸の昂りは今でも忘れぬ。今回バイユーを出てからこの地“シェルブールへの道”もあの時と同じ昂りを覚えたものです。Storyの主人公ジュヌヴィエーヴの母エムリ夫人が営む雨傘店はどこなのだろう、恋人のギイが立ち直って仕事を始めたガソリンスタンドは？など、バイユーからの道すがら胸わくわくでありました。



図5. 到着した晩 シェルブールの街中へ夕食に

今回、旅をするに当たっては、その宿泊予定の街の宿へ予め電話で予約を入れておったのですが、実は到達し得なかったホテルもあったのです。ラッキーなことにこの Hotel Mercure は非常に分かり易く、シェルブールという港町の岸壁に向かって立ち、そのネオンサインが私たちを捕えてくれました。なお、この Hotel Mercure は前年の89年夏にも南仏のニースで滞在しており、快適性は織り込み済みでありました。見つけた時はホッと一息ついた瞬間でもありましたね。

チェックインし、いつもの通りその晩、クリスマスのイルミネーションに輝くシェルブールの街中へと家族で夕食を求めて



図6. バイユー博物館 ticket

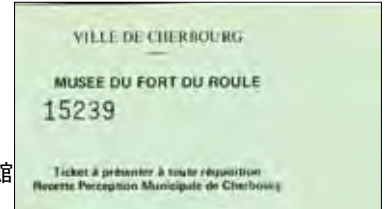


図7. シェルブール博物館 ticket

いったのは言うまでもありません。

旅は二日目の晩を迎え、程よい疲れを覚えており、またお気に入りのホテルでもあり、あっという間に寝入った模様。

さて Hotel Mercure での朝食は美味しく、また今日も遠距離を走らせることになるのでしっかりと食料を腹に納め、深呼吸をし、出発への心づもりを設けたものでした。

今日の行先はモン・サン・ミッシェルからサン・マロまで、



図8. シェルブールの丘からその街を見晴らす  
これは、戦争博物館の庭に設置された砲塔（当時）。

まだまだノルマンディー地方の素晴らしい風情をこの目に納めたい。

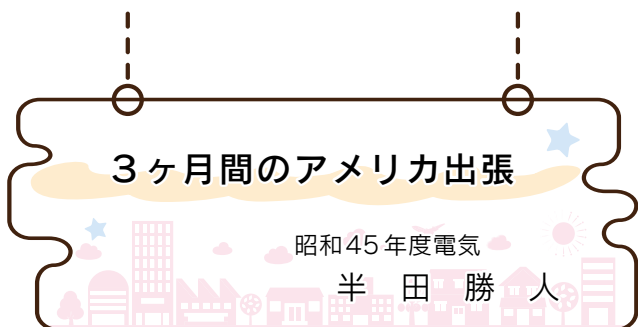
ここシェルブールはそれらへの前行程なのですが、せっかくの町の様子などをこの目に焼き付けたいと思い、町の南東に位置する丘の上に登ってみた。この町はルイ16世によって軍港として建設が進められて来、前記のノルマンディー上陸作戦では連合軍とドイツ軍による激しい戦いが展開された。これを“シェルブールの戦い”と呼称しており、ここにも戦争博物館が創られている。

ここにいつときたはずみ、まだまだこれからの旅を思い、気力を得るべく丘の頂きから思いっきり深呼吸をした。

見渡すシェルブールと別れを告げ町の南へ出、モン・サン・ミッシェル方面にハンドルを向ける。

FMラジオをONすると、ふと昔よく聞いたジョニー・ティロットソンの「Poetry in Motion」が流れてきた。60年代の歌で、高専の寮時代、勉強しながらよく聞いたものだ。

ジョニーの歌を耳にしながらか、懐かしさの満ちた心を得て一路モン・サン・ミッシェル目指しN13号線を南下する。(続く)



アメリカの SC 州の Blythewood にある Richland 工場に、3ヶ月間出張した。

### 3. Richland 工場

Orangeburg工場の駐在時に、一度だけ見学に行ったが当時は小さい工場（HUBの旋削行程）でした。

また、隣にコカ・コーラ工場があり、現在もありました。設備機械の制御盤に Orangeburg 工場 で英訳した電気図面が入っていたので、懐かしかった。Orangeburg 工場にいた、エンジニア（2人）とメンテナンス（1人）に再会することができた。

可動率を上げるにはチョコ停をなくすのが効果的なので、ラインの品物の流れを観察して、電氣的&機械的に対応した。

修理部品を取りに部品倉庫へ行ったら、倉庫の管理を外部業者に依頼して、機械部品と電気部品を混ぜて管理していた。日本では、機械部品と電気部品は別管理している。

出張期間中に一



Richland 工場



### 1. 目的

短期技術支援として、2017年/5月中～8月中の3ヶ月間滞在した。（出張時は66歳で、会社には67歳まで勤務した）

主に、メンテナンス部門の支援で、現場の設備機械の不具合を修理・改善した。製造品目は、HUB UNITのみで、ラインの拡張をしていた。

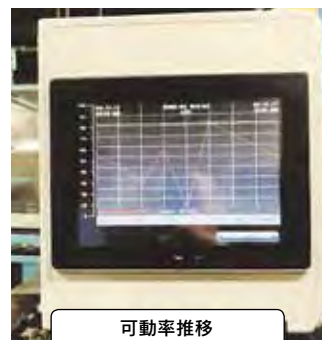
アメリカ渡航について、最初は Orangeburg 工場の拡張ライン工事担当（9ヶ月間）してその後、駐在員として（5年間）勤務し、今回が3回目となった。

### 2. 出張者

他工場も含めて、総勢7人（駐在員は8人）



可動率 (Bekido)



可動率推移

度 Orangeburg 工場に行く機会があった。当時、一緒に仕事していたエンジニア (Todd) に会ったら現場に行って自分が設置した可動率のモニター&改善事項等を説明してくれた。Todd は以前、日本に研修で来たことがあり休日に観光案内をした。Todd とは、毎年 Christmas card を交換している。



#### 4. ホテル、食事

工場から車で5分程度のホテル (Holiday Inn) で、3ヶ月間滞在した。

無料のWi-Fiがあったが、週ごとにパスワードが変更されるので、フロントに聞きに行った。ホテルの部屋に備付けのテレビを見ていたら、田中将大投手が出ていた。テレビで、どのチャンネルで消しても、点けたら必ずウェザーチャンネルが映っていた。湯を沸かすのに電気ポットを持ってこなかったが、電子レンジで沸かすことができるのを初めて知った。トイレにウォシュレットが付いていなかったのが不便だった。

食事は、朝食はホテルで、昼食は工場の食堂 (いつもホットドッグを注文するので顔を見たら出してくれた。それと野菜は毎回撮るようにしていた) で、夕食はホテルの近くにある中華料理店で買ってホテルの部屋で食べ

たり、支援者全員が買ってきて分けて食べた。また、近くのスーパーマーケットの横にあるピザ&地中海料理の店に行った。工場の食堂で、最初の頃は支援者たちと食べていたが、2ヶ月くらい経った頃から、メンテナンス (Phil さん) の人たちの席に行き、一緒に食べるようにした。

加熱式タバコが流行っていて支援者の何人かが購入していた。豊富なフレーバーがあり楽しんでいたが、ある日の出勤前にホテルの入口で吸っていたら、お客さんが「ガン (cancer) になるよ」と言っていた。

工場の休憩室にいたら、メンテナンスの人が横にきて話をしたが、若者の飲物が良くなって健康に影響を及ぼすと言っていた。その人は自宅から作ってきた飲物を持参していた。

#### 5. 射撃

スタッフが短期技術支援者にライフルと拳銃を撃つ機会を与えてくれた。ライフルはクレー射撃をしたが、衝撃が大きいので肩でしっかり固定した。銃口を絶対に人に向けないよう注意された。



#### 6. 野球観戦

会社のイベントがColumbia (州都) であり、野球観戦をした。試合が終わった直後、前に行き阿波踊りを踊ったら女性警備員に降ろされた。



Ronald は Orangeburg 工場で、エンジニアとして一緒に仕事していた。彼は定年退職後は、アメリカの年金をもらえるので、母国のホンジュラス (中南米) に帰るとのこと。ホンジュラスは物価が安くて優雅な生活ができると言っていた。

Ronald 夫妻と改善チーム長夫妻に球場の屋台風で売っていたお菓子をあげたら、お返しに Budweiser をもらい、瓶のまま飲んだ。お返しの習慣がある。



### 7. Orangeburg の思い出

家族と一緒に暮らしていた家です。庭で駐在員たちの家族とBBQをしたり、子供たちもたくさんいたのでゲームして楽しんだ。その頃、駐在員が20人程度いました。

また、短期技術支援者の人たちを招待して日本食で、もてなした。



家の正面



出入りは裏側から

### 8. 出張最後の日

#### ラインの人たちと



#### メンテナンスの人たちと



Orangeburg 工場から偶然に来ていた元同僚



Phil さんには、住所を聞いていたので、Christmas card を送った

#### スピーチ前の紹介



元同僚で当時は黒髪だったが gray hair になったと言われた



スピーチ時に集まってくれたメンテナンスの人たち



【スピーチの一部】

*「 I like 3words (3C).  
Collaboration, Communication & Continuation. 」*

## 悠久に寄せて — 転機 —

昭和40年度入学 機械  
山田喜吉



Pict 1 (昭和42年頃の阿南高専全景 於津乃峰山上筆者撮)

数年前から四期機械の仲間に入り楽しいひとときを過ごすことが多くなった。

今ではグループラインで硬軟取り混ぜた内容のやりとりを娘が驚くほどの頻度で交わしている。そんな日々の中、同期の久米君から弾みで「山田、おまえ悠久に投稿せえ！」と一声。

中退だからと辞退したが押し切られてしまった。

私は四期中退組だ。小中学校と勉強しなくてもなんとか進み、運だけで高専も滑り込んで入学した。そんなペースでの勉強ではとても高専レベルの学業には追いつかず、特に英語1教科で18点という1教科落第点。当然のように留年、中退の憂き目を見てしまった。自業自得である。

中退後は多くの者がそうだと思うがしばらく心身ともに腐っていた。しばらくして知人の経営する自動車修理販売会社に勤めた。

最初の転機は、当時付き合っていた22歳、同い年女性の両親に「娘も年頃だから結婚の意思はどう？」と問われ「意思はあるが現状で収入面で不安があり共働きでないとすぐには無理」と答えると、「うちの娘は共働きするよう



Pic2 「静寂の道」  
とくしまはな遍路フォトコンテスト優秀賞

な育て方はしていない」といわれ、当人自身に聞いても「共働きはできないと思う」との返事。「結婚するなら早くして欲しい」と、だが経済力がない。窮地に追い込まれてしまった。

悩みに悩み、とことん二人で話し合い、出た結論は別離。一人の女性も養えない自分の境遇があまりに情けなく悶絶の日々。勤めていた会社も2年目になり部下がででき、上司と部下の板挟みや労働組合問題などが生じ、自分は組織的な人間ではないと自覚。

また、祖父の代からの鍼灸院を営む父の収入と私の給料との格差に衝撃を受ける。

個人の力量次第で高収入、社会的信用、自立性が期待できる道として家業の鍼灸師として生きる目標が次第に定まった。周囲の世話になった方々、両親の賛同を得て思い切った転身を決意。

鍼灸師には鍼灸専門学校を卒業し国家試験に望まねばならない。当時社会には中国の針麻酔が話題になり、鍼灸学校の受験競争率が10倍以上に伸びかなり狭き門となった。受験科目は、数学、国語、生物の3科目。なんと英語がないのである。どれだけ心が軽かったか。1972年11月末のことである。入試は2月初旬、もう日数がない。数学、国語はなんとかなるが問題は生物、友人に高校生物学教科書を譲り受け、おそらく一生で一番勉強したであろう2ヶ月を経て大阪の明治東洋医学院、現国際医療福祉大学に合格した。この当時専門学校で学ぶのは、国家試験の内容にそくした解剖、生理、病理、疾病、衛生、治療学など基本的な西洋医学知識に加え、専門科目として経穴学全般（一般に言われるツボ）と実技（正確なツボの取り方、ハリ・灸の施術）を学び国家資格を取得した。

しかし、この世界は流儀流派が乱立し、お山の大将ばかり。本物を見極めるため、在学中から関西在住の祖父の弟子、同業の親類縁者を訪ね各種勉強会、研究会、学会を渡り歩いた。



Pic3 (素問文書・中医学書)

およそ3000年前に編纂された東洋医学書と現在中国で使用している東洋医学書



Pic4 「歓声」 鳴門百景フォトコンテスト 優秀賞

何より幸せだったのは東洋医学は全く英語を必要としない世界。漢字ばかりの世界だということだ。水を得た魚のように研鑽が進んだ。東洋医学という漢字文化、東洋文化に触発され、英語というくびきから解放？され、どれだけ幸せだったか。今までの生活、社会環境などとは全く異なる思想、基本理念を持つ東洋医学の世界に魅了されてしまった。

東洋医学の最大の特徴は全くの個人医学（弁証論治とか随症療法といわれ、病名診断でなく治療法を直接導くための病態把握法）であり、統一体観（個人を取り巻く各種環境、自然、社会、地域、職場、家庭などの関わりを重視）に基づく全体把握の医療、独自の医学用語を持つ（陰陽、表裏、寒熱、虚実。五臓六腑、生理病理表現、湯液、生薬名、経絡経穴名などなど）。東洋医学の内容詳細は今回の本題ではないので別の機会に譲る。

25歳で国家免許取得後まもなく徳島市に独立開業。当時鍼灸専門治療院は少なく患者には困らなかつた。



Pic5 「おごくの夜」 徳島放送美術展 優秀賞

驚いたのは高専時代の英語落第点を頂いた？英語教師の「疾風」こと柳先生がボーリングの国体選手になり、肩を痛め治療を受けに来院したこと。治療が終わり先生が、「山田君いい仕事に就いたね」と一言、複雑な心境だった。地理の寺戸先生、化学の戎谷先生、他にも何人かの高専時代の先生が来院



Pic6 「森の踊り子」 徳島県美術展 初めての入選

した。一番充実していた日々であった。

しかし、無類の酒気好きと趣味の弓道、船釣り、カヌー、キャンプなど遊びの過労がたたり、45歳で十二指腸乳頭部癌を発症。胃3分の2、膵臓2分の1、十二指腸、胆嚢周辺リンパを摘出。手術に11時間を要し3ヶ月入院生活を余儀なくされる。退院時、2年生存率5%、抗がん剤の効果は15%ほどしか望めないがどうするかを問われ、自身の持つ東洋医学のみで闘病を決意し抗癌剤治療を拒否。結果、今も元気に生存している。



Pic7 「闘志」 徳島県美術展 奨励賞

2度目の転機である。

救われた命、「何かこの世に役割が残ってるのか？」の思いで、東洋医学の啓蒙普及に力を注ぐようになった。この前後から乞われて厚生大臣指定講習会講師、全日本鍼灸学会徳島県会長、同中四国支部副会長、同日本本部評議員、日本東洋医学会役員などに加え、薬剤師会など各種医療機関や、県、市民を対象とした東洋医学講演など、多忙な日々を送っていたが加齢と手術で内臓をかなり除去した影響か、疲労すると腹痛と発熱が続くようになった。そして鍼灸師としては名誉ある日本東洋医学会鍼灸学術委員を2年務めたのを最後に、東洋医学関係の役職、鍼灸関係業界役職、各種講演活動を全て辞退、65歳であった。

63歳の時、近くのショッピングセンターで写真愛好ク



Pic8 「秋の大釜の滝」  
とくしまはな遍路フォトコンテスト  
入賞



Pic9 「秋色の染まる」  
日本写真連盟徳島支部 応募作品



Pic10 「静寂」  
日本写真連盟徳島支部フォトコンテスト  
入選

ラブの「鳴門ピンボケクラブ」写真展鑑賞の機会があり、ここで偶然に同写真クラブのメンバーで、高専同期の橋本義信君の細君と出会い写真談義。感想を聞かれ高専時代写真部に所属して三木晴夫先生のご指導を受け、多少心得があったからあれこれ批評してしまいあげくに「このレベルの写真なら私に撮れる」と見栄を張ってしまった。結果、強引に勧められ「鳴門ピンボケクラブ」に入会。

3度目の転機である。

約45年カメラに触れていなかったが、高専時代の楽しかった写真部活の思い出が湧き上がり心に火がついてしまった。高専当時はモノクロ写真。フィルム現像からプリントまで全て学校の暗室での作業である。カラー写真はまだ一般にはそう普及していなかった時代。今や写真はデジタルである。カメラがコンピューター化して全くのちんぷんかんぷん。露出、シャッター速度、iso感度などの基本的な仕組みは理解しているがそれをカメラでの操作となるとどれだけ戸惑ったか。一応使いこなせるようになるとすぐにカメラが進化する。機能も増え性能がよくなるが益々メニュー操作が複雑化する。イタチごっこである。現像、編集するパソコン性能もハード、ソフトともにバージョンアップが要求される。また、大見栄を切った写真の腕であるが当初はまるでさっぱり、クラブメンバーが徳島県展など各種フォトコンテストに入選、入賞していくのを横目に自分が選に入らないのは、腕やセンスはさておき、やれレンズが悪い、やれカメラが悪いと嘯き新機種を購入する始末。かなり日本経済に貢献したと思いたい。

最初は訳わからず初心者の定番、季節の花、身近な風景ばかり撮影。俗に言われる凶鑑や絵はがき写真、口悪い人に言わせれば現場に行けば誰でも撮れる写真である。

自身でどんな写真が撮りたいのかも自覚しないまま、ただただ気が向いた写真ばかり撮っていたが自信過剰で徳島県展応募に応募。県展はネイチャー写真は通りにくいよと、先輩諸氏に聞いていたが、持ち前の反骨心で毎年ネイチャー写真で応募、初めて県展に入選したのが3年後。

次第に、経験が進み作品めいたものに近づき、各種フォトコンに入選入賞するようになりやっと写真が楽しめるようになった

同期仲間の西條義昭君も女性ポートレート専門？に撮影を楽しんでいたのがわかり、彼に誘われ日本写真連盟徳島支部に入会。



Pic11 「ダンディズム」  
日本写真連盟徳島支部フォトコンテスト  
入選



Pic12 「風に遊ぶ」  
日本写真連盟徳島支部フォトコンテスト  
入選





Pic13 「そよ風」  
日本写真連盟 四国写真展  
愛媛放送賞

また、退職して帰郷した香川利夫君は郷里徳島の魅力再発見を目的とした写真活動を意欲的に始めた。私がナビゲートして香川君と徳島県内の山地を巡り、帰路には田舎の温泉などを楽しんでいる。また今は年に数回開かれる日本写真連盟主催のモデル撮影会には西條、香川君との3人で参加し、若

い女性にレンズを通して触れあう楽しみを味わっている。

人生の大きな転機を三度、一番大きいのは学業の中途挫折、それに伴う結婚問題に因る職業の大転換。2度目は健康を害し死線を越えての生き方の転機。3度目、晩年をむかえた今は、不思議な縁による高専時代夢中だった写真活動への回帰。デジカメ撮影、PCによるレタッチ、自宅プリント、用途別カメラ、レンズ、各種アクセサリなどの収集を楽しんでいる。

そして今は何よりも、気の置けない高専時代の同期仲間を大切に、仕事を離れた趣味の世界、写真仲間との屈託のない会話や撮影旅行、苦しいがワクワクするフォトコンテストに応募し、刺激を受けながら余生を身体の許す限り楽しもうと思っている。

# 令和5年 悠久同窓会総会

令和5年8月12日

令和5年度  
名誉教授会定例会・悠久同窓会総会を開催しました。

8月12日（土）、名誉教授会定例会と悠久同窓会総会を開催しました。

悠久同窓会総会には、24名の卒業生の方が出席、オンラインでも関西支部の久米啓右さん（7E）、関東支部の高橋保人さん（7M）、喜多明徳さん（1M）が参加され、山崎辰三郎氏（2M）による特別講演「日本芸能について」を開催しました。

また、総会終了後には、名誉教授の先生方との合同食事会もありました。

ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。



今回の悠久同窓会総会に出席された方々です。



令和5年8月12日 山崎辰三郎氏講演会



# 会員調査のご協力・協賛広告掲載のお願い

会員各位

阿南工業高等専門学校悠久同窓会  
会長 横手 久典

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より母校発展のために格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

阿南工業高等専門学校として創立 60 周年を記念し、同窓会名簿の改訂作業を小野高速印刷株式の協力のもとに進めております。全ての会員様へ名簿掲載内容確認のための調査ハガキを郵送しておりますので、登録状況を確認の上、ハガキを郵便ポストへ投函ください。

ハガキの返信がない方で、お電話番号が分かる方には、「登録状況の確認」と、個人情報保護の観点より「名簿掲載の有無」を後日お電話にてお伺いさせていただき予定です。

この名簿印刷作業における経費については会員様への名簿販売収入及び広告掲載収入で賄っております。大変恐縮ではございますが、どうぞこの主旨をご賢察の上、下記の要領をご高覧いただき名簿のご購入及び、広告の掲載にご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

発刊予定日

令和 6 年 10 月末日発刊予定

名簿価格

4,000 円 (送料込み)

広告掲載料

(消費税含む)

	モノクロ	カラー
1 ページ	55,000 円	1 ページ 110,000 円
1/2 ページ	33,000 円	1/2 ページ 77,000 円
1/4 ページ	22,000 円	

名簿賛助金 10,000 円 / 名簿発刊協力金 2,000 円 ※いずれも芳名欄に記載

原稿サイズ

1 ページ	幅 17.2cm × 縦 25.7cm
1/2 ページ	幅 17.2cm × 縦 12.65cm
1/4 ページ	幅 17.2cm × 縦 6.1cm



※写真、ロゴマーク等を使用する場合は、コピーや FAX では仕上がりが良くありませんので、そのまま印刷に使用できる原稿をお送りください。

広告掲載者と賛助金申込者へは会員名簿は贈呈となります

お問合せ先

〒 870-0913 大分市松原町 2-1-6 小野高速印刷株式会社 同窓会支援事業部 広告係  
TEL 0120-22-5085 FAX 0120-81-2299  
Mail : koukoku@ohp.co.jp URL : http://www.dousou.info  
※版下作成・校正などの作業は小野高速印刷株式に委託しておりますので、上記まで直接お送り頂くかお問合せください。

# 現役クラブだより

## …体育部…

### テニス部

テニス部は現在総部員数 36 名で、1 年生 5 名が新たに部員として加わりました。一般教養 中島 一先生が弓道部に異動され、電気コース 内野翔太先生が新たにテニス部顧問になりました。外部コーチ シオンテニスクラブ 河野一郎・阿紀子両氏との連携は 13 年目となり、民間連携テニスクラブとなっています。さて、春の県高校総体においては、令和 4 年度に続き男女団体でベスト 4 入りを果たしました。また、令和 5 年度は阿南高専が主催で四国地区高専大会が行われ、すべての種目で優勝を果たしました。団体戦は 2 連覇になります。一方、全国高専大会は有明コロシアムで行われ、男子ダブルスで 3 位入賞し、オープン種目の四国地区女子団体は 3 位入賞となりました。令和 6 年は高校総体団体ベスト 4、四国高専大会では団体優勝して 3 連覇し、北海道苫小牧で開催される全国高専大会へ出場を目標に、高低学年ともに練習に励んでいます。また、高校夏季大会では 2 年情報 鹿島颯人くんが男子シングルス 3 位、ダブルス 3 位に入賞する活躍を見せています。テニス部 OB、OG および関係保護者におかれましては、来年度も 6 月の高校総体団体（大神子）をはじめ、7 月の四国高専大会（弓削主催）、8 月の全国高専大会（北海道：苫小牧高専主催）に来場して頂き、応援をお願いできればと思います。なお、春季高専大会は団体戦から個人戦のみに変更され、高校と同じランキングによるポイント制により次年度の夏季高専大会のシード決めを行うことになりました。令和 6 年度の春季大会は多くの部員が試合に参加できるようにします。

令和 4 年 12 月～令和 5 年 12 月までの活動状況をお知らせします。

#### 1. 顧問・コーチ

主顧問 原野（機械）、高岸（技術部）、長田（建設）、内野（電気）、錦織（一般）、太田（情報）



全国高専大会（有明コロシアム）

#### 2. 部員

5 年生 8 名、4 年生 7 名、3 年生 10 名、2 年生 6 名、1 年生 5 名

#### 3. 部長

男子 浦 大輝（4C）

低学年キャプテン 大石敦士（2E）

女子 宮内優衣（3E）

低学年キャプテン 岡久紋乃（2I）

#### 4. 練習時間

月・火・木・金 放課後（16 時 15 分～ 18 時 45 分）  
土（9 時～ 12 時）

令和 4 年 12 月～令和 5 年 12 月までの主な試合成績は次のとおりです。

#### ◆第 58 回全国高等専門学校体育大会（第 46 回全国高専テニス選手権大会）（東京都有明コロシアム）

男子ダブルス 3 位（2I 鹿島颯人（初）、2E 大石敦士（初））

#### ◆第 60 回 四国地区高等専門学校体育大会

（徳島県南部運動公園）

男子団体優勝（2 連覇）

（5I 美馬・2I 鹿島・2Z 熊尾・5E 鹿島・4C 浦・4M 伊達・5M 吉川・5I 北野）

男子シングルス 優勝 2I 鹿島颯人（初）

準優勝 4Z 熊尾醍知（初）

3 位 4C 浦 大輝（初）

男子ダブルス 優勝 2I 鹿島颯人・2E 大石敦士（初）

準優勝 5M 伊達猛人・5I 北野敦己（初）

女子シングルス 優勝 3E 宮内優衣

3 位 2I 岡久紋乃

女子ダブルス 優勝 2I 岡久紋乃・1-2 福岡 凜（初）

準優勝 4E 宇津和奏・3E 宮内優衣（初）



四国地区高専大会（全種目優勝）

◆高校総体

男子団体 3位

(3E 栗山圭佑・3E 田村将理・2I 鹿島颯人・2E 大石敦士・1-3 森山偉久)

女子団体 3位

(3E 宮内優衣・2I 岡久紋乃・2E 関口心菜・1-2 福岡凜・2Z 西田舜梨)

◆夏季大会(1年生大会)

男子シングルス 3位 1-3 森山偉久

◆高校秋季大会

男子シングルス 3位 2I 鹿島颯人(初)

男子ダブルス 3位 2I 鹿島颯人・2E 大石敦士(初)  
(テニス部顧問 原野智哉)



高校総体 男女団体3位写真

水 泳 部

水泳部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。水泳部顧問の電気コースの松本高志です。今年度の水泳部は7名で活動しました。久しぶりに女子部員が入部しました。6月の徳島県高校総体を皮切りにリレー競技にも参加できました。むつみスイミング(徳島県蔵本公園プール)は大改修が終わり、屋根がかかって夏場も快適になりました。そのむつみスイミングで開催された四国高校選手権には4名参加できました。5年生の松本君は、7月1日に広島・ひろしんビッグウェーブで開催された第54回中国四国学生選手権水泳競技大会兼第53回中国四国国立大学選手権水泳競技大会へ出場し、全国大会への出場権を得ました。そして、8月10日から12日に新潟・ダイエープロビスフェニックスプールで開催された第70回全国国公立大学選手権水泳競技大会へ出場しました。高専の大会では、四国地区高専水泳競技大会において7種目で優勝し、8月24日から26日に長野・アクアウィングで開催された全国高専水泳競技大会においても表彰台に上がり、大いに活躍しました。



令和5年 阿南工業高等専門学校水泳部の主な大会記録

◆徳島県高等学校総合体育大会 令和5年6月4日

○男子 200 m 平泳ぎ

第2位 2分30秒81 炭谷吏皇

○男子 100 m 平泳ぎ

第3位 1分08秒24 炭谷吏皇

○女子 200 m 個人メドレー

第2位 2分36秒87 山口叶音

○女子 200m自由形

第2位 2分24秒36 山口叶音

◆徳島県高等学校選手権大会 令和5年6月17日

○男子 200 m 平泳ぎ

優勝 2分30秒73 炭谷吏皇

○男子 100 m 平泳ぎ

第2位 1分08秒57 炭谷吏皇

○女子 200 m 個人メドレー

第2位 2分37秒25 山口叶音

○女子 100 m バタフライ

第3位 1分09秒84 山口叶音

◆第60回四国地区高等専門学校体育大会

令和5年7月1日～2日

○男子 200 m 平泳ぎ

第1位 2分36秒14 炭谷吏皇

○男子 200m背泳ぎ

第1位 2分14秒10 松本直大

○女子 200m個人メドレー

第1位 2分33秒13(大会新) 山口叶音

○女子 50m自由形

第1位 28秒21(大会新) 山口叶音

○男子 50m自由形

第2位 27秒05 鈴江睦来

○男子 4×100mメドレーリレー

第3位 4分23秒74

(鈴江睦来・炭谷吏皇・松本直大・宮繁楓空)

○男子 100m平泳ぎ

第1位 1分08秒99 炭谷吏皇

○男子 100mバタフライ

第1位 56秒52 松本直大

○女子 100m自由形

第1位 1分03秒55 山口叶音

- 女子 100m自由形  
第3位 1分 13秒 13 一柳里菜
- 男子 4 × 100mフリーリレー  
第3位 4分 02秒 57  
(鈴江睦来・炭谷史皇・松本直大・宮繁楓空)

◆第58回全国高等専門学校体育大会  
第29回全国高等専門学校水泳競技大会  
令和5年8月26日

- 男子 100mバタフライ  
第2位 57秒 76 松本直大
- 女子 50m自由形  
第3位 29秒 13 山口叶音  
(水泳部顧問 松本高志)



## …文化部…

### 吹奏楽部

昨年度に引き続き今年度も校内フェニックス広場にてプチコンサートを行うなど、野外での演奏活動が中心となりました。その他、主な演奏機会は次のようです。

○もりのマルシェ  
(2023年5月20日・10月21日、杜のホスピタル)  
本校吹奏楽部は昨年度に続いての参加。「Mela!」「アフリカン・シンフォニー」「きらり」「ダンスホール」など、来場者の拍手に合わせて演奏し、会場を盛り上げました。もりのマルシェは10月21日にも開催され、本校吹奏楽部はそこでも演奏しました。

○蒼阿祭 (2023年11月4日、阿南高専)  
吹奏楽部はフェニックス広場において「オトナブルー」「アイドル」「ダンスホール」など、最近の流行人気曲を中心に演奏しました。

○2023年四国地区高専総合文化祭  
(2023年12月9日、新居浜市市民文化センター)  
2023年に話題となった曲を中心に、「オトナブルー」「Mela!」「可愛くてごめん」「新時代」「名探偵コナンメインテーマ」「おジャ魔女カーニバル!!」を演奏しました。審査の結果、12年ぶりで優秀賞を受賞しました。



四国地区高専総合文化祭

○ANAN Luminous Town Project Winter Illumination 2023  
(2023年12月23日、牛岐城址公園)

昨年度に引き続き本イベントに参加し、総合文化祭で披露したプログラムで演奏しました。



ANAN Luminous Town Project

○第51回徳島県アンサンブルコンテスト  
(2024年1月14日、美馬市交流センターミライズ)  
本校吹奏楽部は金管四重奏で出場。「コバルト・ブルー」を演奏し、結果は銀賞でした。

少しずつ部員が増え、現在、26名で活動しています。今年度は卒業する部員がいませんので、来年度は新たに1年生を迎え、より本格的な演奏を目指したいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

(吹奏楽部顧問 錦織浩文)

## 茶 道 部

茶道部 OB・OG の皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員 11 名（専攻科 1 名、4 年 1 名、3 年 3 名、2 年 3 名、1 年 3 名）で活動しています。5 年生部員は不在です。新型コロナウイルスの猛威も収まってきましたが、その猛威の影響が部員が減少傾向にあります（今年度の四国地区高専総合文化祭でうかがうと、他高専も同様の傾向だとのことでした）。

新型コロナウイルス対応で活動制限がありましたでしたが、今年度、学寮の教養講座は平常どおりの実施にもどり、講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週 2 回ずつ、高志会館 2 階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林 初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が引き続き担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。今年度も恒例の春と冬のチャリティー茶会を実施いたしました。期間はどちらも 2 日間のみでしたが、常連の教職員をはじめ、多くの学生たちにご来会いただきました。

11 月の蒼阿祭（今年度から従来の呼称にもどりました）については、今年もお茶会を開くことができました。今年度は蒼阿祭当日の天候がよく、本校の学生や教職員だけでなく、保護者や学生の友人、茶道部をはじめとする卒業生など、用意したお菓子が不足になるほど多くの方にご参会いただきました。お菓子不足は今までにない経験で、大盛況のうちに実施できました。今年度はメンバー不足ででき

ませんでした。来年度は女子学生による和服のおもてなしも復活できればよいと思います。

12 月には四国地区高専総合文化祭（新居浜高専主催）が新居浜市の新居浜市民文化センターで開催され、日帰りでお茶席を実施することができました。ただ、引き継ぎ不足で多くの忘れものが出てしまい、それは来年度以降の反省点となっています。参加校は香川高専高松キャンパス・高知・新居浜・阿南の 4 高専でした。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- ・ 4 月 春のチャリティー茶会
- ・ 11 月 蒼阿祭 お茶席
- ・ 12 月 四国地区高専総合文化祭（新居浜高専主催）お茶席
- ・ 1 月 初釜チャリティー茶会

部 長 金住和香（機械コース 4 年）  
顧 問 藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

部員はやや減少しておりますが、例年どおりに和気藹々とした雰囲気のもと稽古に励んでいます。今後とも OB・OG の皆さまにはご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

（茶道部顧問 藤居岳人）

## プログラミング研究部

プログラミング研究部の OB・OG の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。プログラミング研究部は昨年度に引き続き私（太田健吾）を主顧問とし、現在 26 名（5 年生 8 名、4 年生 4 名、3 年生 3 名、2 年生 5 名、1 年生 6 名）の部員が活動しています。

さて、今年度は第 34 回全国高専プロコン福井大会が 2023 年 10 月 14 日（土）～ 15 日（日）にサンドーム福井で開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響も一段落し、昨年度に引き続いて今年度も対面開催となり、全国の高専から集まった参加者が一堂に会することができたほか、企業からも多くの方が参加され、コロナ禍以前の盛り上がりを取り戻しつつあります。

阿南高専は、「オンラインで生み出す新しい楽しみ」をテーマとした課題部門において、「CYBER WARS - セキュリティ初学者の夜明け -」と題したチームが予選を通過しました。本チームは 5 年生のメンバーで構成され、サイバーセキュリティの知識を初学者でも楽しく学べる対戦ゲーム形式の Web アプリケーションを提案しました。高学年らしい技術力の高さと、これまでのプロコン経験を活



かした集大成として、完成度の高いシステムを仕上げることができました。また、ユーザインタフェースの優れたデザインや、生成系AIのChatGPTを効果的に活用している点なども高く評価され、特別賞（最優秀賞・優秀賞に次ぐ第3位に相当）を受賞しました。

また、競技部門では、「陣取りゲーム」を題材とした競技が行われ、高得点となる「城」や障害物となる「池」が配置された競技フィールドを舞台に、プログラムと人間の協働によって陣地を獲得していく戦略や判断力を各チームが競いました。阿南高専のチーム「ギリギリセーフ」は、探索アルゴリズムを駆使した戦略とプログラミング技術により奮闘しました。

阿南高専は、課題・自由部門において、2012年の第23回大会以来12回の連続本選出場を果たしており、直近12回の連続出場は全国の高専63校中3校のみが達成している快挙となります。今後もさらなる活躍に向けて日々取り組んで参りたいと思います。引き続きご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（プログラミング研究部顧問 太田健吾）



# 蒼阿祭

## 2023

第15回蒼阿祭が11月4日(土)阿南工業高等専門学校校内において開催されました。

各種イベントや専門展示のほか、今年初の試みで、キッチンカーでの飲食提供や芸人によるお笑いライブ（後援：悠久同窓会）なども実施され、大いに盛り上がりました。



悠久同窓会ブース



悠久同窓会では、図書館棟2階に「悠久同窓会ブース」を出展し、歴代卒業アルバムの展示や、OBとの面談コーナーを設けました。

会場には、在学生のほか、保護者の方や卒業生など、大勢の方が訪問してくださいました。

OBとの面談コーナーでは、同窓会長の横手さん(14C)はじめ、関東支部長の高橋さん(7M)、関西支部長の久米さん(7E)にご参加いただき、ブースを訪問してくれた学生と情報交換するなど、現役学生と交流することができました。

会場にお越しいただいた皆様、どうもありがとうございました。

支部  
だより

# 悠久東京支部同窓会



## 「関東支部悠久同窓会開催」と「ロボコン大会応援」について

支部長（昭和48年度機械） 高橋保人

### 「関東支部悠久同窓会開催」

令和5年10月28日（土）午後1時から、新宿住友ビル47階住友クラブにて悠久関東支部同窓会を開催しました。当日は高層ビルの窓から見える風景は絶景で、1年ぶりの再会にふさわしい秋晴れでした。今回で55回目となり、振り返ると昭和、平成、令和の時代を着実に実施できたことに感慨無量です。前支部長から継続できていることに格別な想いもあります。また、今回も同じ場所で開催できるのも1Mの喜多さんのおかげです。感謝の一言です。

今回はコロナ前と変わらない状況で開催しました。コロナに負けずに実施したいという思いで取り組みました。人数制限を設けず、立食スタイル（バイキング形式）に戻すことを喜多さんに相談し、開催場所の住友クラブ様にかけて頂き、了承を得て進めました。開催案内は関東支部の会員はもちろんのこと、悠久同窓会本部、事務局にも案内を出しました。また徳島県東京本部にも声をかけて参加をお願いしました。結果、41名の参加となりました。これほどの参加者が集まるとは思いませんでしたので正直驚きました。当日体調不良などで取りやめた方がいて最終参加者は37名でした。

さて次第ですが、各方面の関係者の方々に挨拶をお願いしました。母校の寺沢元校長からは退任後の仕事や趣味のマラソンなど近況を伺うことができました。翌日にハーフマラソン大会出場を控えながらも同窓会に参加していただきました。次に元副校長の田中先生に挨拶をお願いしました。同窓会とは非常に関わりがあり、若い卒業生を温かく見守っている先生です。長年悠久同窓会事務局としての職務を全うしていただいています。今回は後任となる奥本先生にもお越しいただきました。本校卒業生（22M）でもあります。また、同じ事務局の四宮さんにもお越しいただきました。関東支部の同窓会の雰囲気味わっていただくことができましたのではないかと考えています。遠路ご苦労様でした。続いて同窓会会長の横手さんには、今後の同窓会の進め方などのお話を含め挨拶を頂きました。更に今回は徳島県・東京本部にも声をかけ、副本部長の大西三根子様の出席をいただきました。徳島県状況、県人会への加入要請、ふるさと納税などのアピールがありました。万博推進に関わっておりバイタリティあふれる人柄の挨拶でした。

いよいよ乾杯となり、4E畑山さんに発声をお願いしました。しばらく歓談と飲食の時間を設け、仲間との話が盛り上がってきた中、会員には近況報告をお願いしました。今回1期生から53期生まで幅広い集まりでしたが、初めて参加、久しぶりに参加する方も複数人いたので、話が弾み時間が足りないくらいでした。年の差は離れていても大いに盛り上がった時間帯となりました。

近況報告も終わり、恒例のビンゴゲームには進行役として、常連の42Sの谷澤さんと今回が2回目の53Mの野口さんをお願いしました。賞品には、住友クラブオリジナルのワインなどが提供され、ビンゴを当てた人が喜んでしたのは印象的でした。盛り上がる中、「アツ」と言う間に時間が過ぎてしまいました。ゲームの後は、奈良県から参加の7Mの佐藤さんのフルート演奏をバックに校歌と寮歌を全員で唄いました。学校の思い出をひと時でも感じた瞬間でもありました。懐かしい歌の後は、閉めの言葉・手締めを4Mの敏鎌さんをお願いしました。

慌ただしい中ではありましたが、写真撮影も無事終わり、次回も元気な顔で会うことを約束し散会となりました。散会後も名残惜しいメンバーが二次会に消えていったことをお伝えしておきます。ほとんどの方が参加したようです。関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。

次回の同窓会は、2024年4月20日（土）、新宿住友三角ビルにて行う予定です。詳細は別途案内します。





「ロボコン大会応援」

母校が11年ぶりに全国大会出場が決まったとの報告を受け、関東支部としても応援団を結成することを決めました。

但し応援人数の制限があり、少数精鋭で臨むこととなりました。応援団の中に熱く燃える先輩から横断幕で応援しようという提案があり、応援参加者の賛同を得て作製に取りかかりました。

表記内容の検討、高専ロゴの依頼、費用などを確認しながら進めました。

その結果、出来上がった横断幕は以下の通りです。

寮歌に出てくる文言をベースに悠久の文字を入れ、更には徳島の藍色を背景にした長さ約3mの横断幕が出来上がりました。ロボコン大会当日は国技館の2階席の手すりに掲げましたが、残念ながら母校は応援むなしく1回戦で退いてしまいました。結果は残念ですが、後輩たちには熱い応援にこたえてもらったのではないかと信じています。

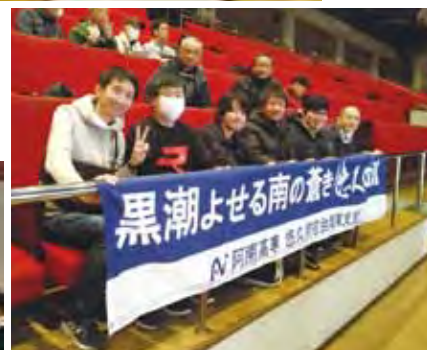
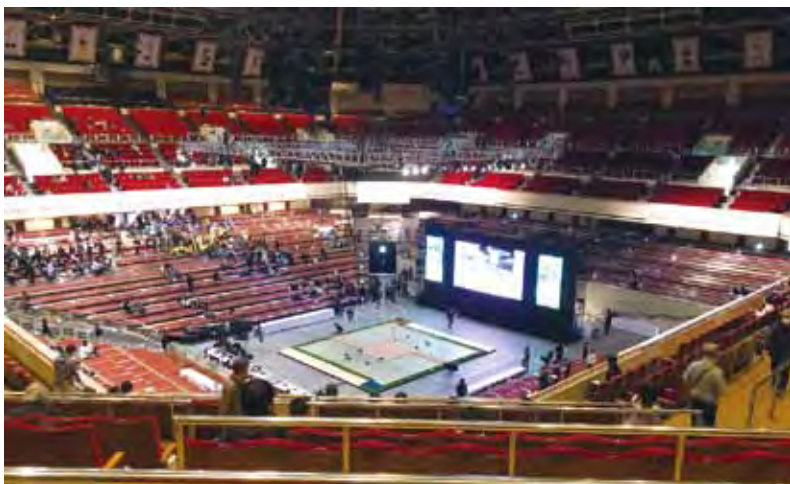
また来年も出場できることを期待しています。

応援団

その後は、応援団11名と松本先生を囲んでの懇親会を実施しました。そちらも盛り上がったことを追記しておきます。



松本先生と関東支部応援団



## 近況報告

### 田中達治 (13E) 昭和54年度

定年退職（短時間勤務しています。よろしくお願ひします。）

### 奥本良博 (22M) 平成元年度

のろのろと働き出して、阿南高専の教員を30年しております。就職担当です。

### 佐竹善仁 (35E) 平成13年度

アプライドテクノロジーというIT機器を扱う会社の取締役をしています。

### 山田登 (20M) 昭和61年度

熊谷で6年、板橋で3年、定年後は阿南予定しています。

### 湯浅尋夫 (2E) 昭和43年度

3月に日本作詞家協会会員になりました。良い作品を作れる様ガンバります。

### 相木隆義 (2E) 昭和43年度

久しぶりに参加して、皆様の元気な姿を拝見でき、うれしく思いました。

### 小林正興 (13E) 昭和54年度

まだ、働いています。(週4が在宅) 毎日、ウォーキング、ラジオ体操して仕事でーす。

### 野田篤志 (53M) 令和元年度

元気にやっています。

### 田上博雅 (5M) 昭和46年度

今年72才の年男！「はしゃぎすぎた人生」を終え、地に足つけ歩みます。

### 敏鎌次朗 (4M) 昭和45年度

健康維持にウォーキングとゴルフ、バカ防止に数独に励んでいます。

### 川人真佐行 (4E) 昭和45年度

生活がゴルフ中心で生きています。

### 工藤陽史 (8M) 昭和49年度

ISO審査員として頑張っています。毎日4,000歩以上を目標にウォーキングも頑張っています。

### 石田徳平 (1E) 昭和42年度

退職後から、サンデー毎日ですが、コロナで少し太りました。ウォーキング再開でスリム化を旨とします。

### 乾寛 (2M) 昭和43年度

遂に後期高齢者に突入、前向きな多忙さと健康寿命は相関有り、と勝手に信じています。

### 速水隆夫 (10E) 昭和51年度

年金いただきながら働いています。でも人生3つ目の仕事を終え、暫くは今後を考える時を過ごす予定。

### 櫛田富生 (8M) 昭和49年度

ただただ体力維持。ゴルフと散歩のじじいです。

### 横手久典 (14C) 昭和55年度

娘（阿南高専OG）の長男、つまり孫ですが、阿南高専に入学させる予定です。皆さんよろしく。

### 林祐貴 (26M) 平成4年度

50才代になりまして、ついに健康に気をつけるようになりました。あいかわらずです（笑）

### 中原康弘 (26M) 平成4年度

最近、プロジェクトマネジメントの社内講師をするようになりました。

### 白浜真二郎 (7E) 昭和48年度

楽しく参加しています。来年もよろしくお願ひします。

### 森宜彦 (12E) 昭和53年度

霊視鑑定を始めました。仕事はサイバーセキュリティをやっています。

### 谷澤彰紀 (42S) 平成20年度

また転職しました！！

### 尾田晃 (36S) 平成14年度

本厄です。肩が上がらなくなりました。

### 山下孝男 (6M) 昭和47年度

一生現役でがんばる予定です。

### 藤高孝二 (14E) 昭和55年度

58才で転職。次は64才で次の仕事を！と考えています。

### 庄野新一 (1M) 昭和42年度

私の仕事はゴルフです。週二回年間50回以上ゴルフをしています。

### 矢野健二郎 (1M) 昭和42年度

後期高齢となりました。まだ毎日歩いています。

**仁木 亨 (30S) 平成8年度**  
はじめて来ました!! 茨城県で頑張っています!!

**喜多 明徳 (1M) 昭和42年度**  
東京・阿南ふるさと会の光流会、港区の区民祭り、スポーツフェスティバルと今年は行事が盛りだくさん。元気にやっています。次回は4月に会いましょう。

**畑山 芳文 (4E) 昭和45年度**  
小学生のサッカーチームのコーチ手伝い、浦安で自分もサッカーチームに入り、毎年、ゴールの年功記録を更新しています。いつまでできるかわかりませんが、がんばります。

**楠田 幸司 (4E) 昭和45年度**  
5年余りの欠席で、久しぶりに参加しました。今日は、午前中に同居の孫の運動会に寄ってから、相鉄線の新しい路線と初めての直通新宿行に乗って来ました。

**本田 勝 (13E) 昭和54年度**  
ボケ防止で、ハングルの勉強を始めました。来年には、しゃべれる様にしたいです。

**佐藤 泰弘 (7M) 昭和48年度**  
古希を迎え、献血クラブを398回で卒業。生駒大学(62才以上)のコーラスクラブで楽しんでいます。

**高橋 保人 (7M) 昭和48年度**  
古希を迎えます。コキコキな体にならないよう気をつけます。来年もよろしくお祈いします。

**新居 秀明 (6E) 昭和47年度**  
古希で再就職します。いつまで続くか?

(第55回)  
**悠久東支部**  
2023(令和5)10.28(土)  
於 新宿住友クラブ

4E 山元 元気でゴッポモ やっています。

53M 野田 靴職します。

36S 辰田 なるべくこうにしろ!

4M 敏鏑 次期 変りが元気にします。

14E 藤高 来年も出席致します。

7M 佐藤 今年が最後の参加です。

10E 速水 健康一番に頑張ります。

26M 林祐 ちゃんと生きてます。

13E 本田 来年も会いましょう。

7M 今年も無事に開催できました。

2M 乾 参加しましはう!

21E の皆さん

4E 畑山 芳文 元気でです。

26M 中原 元気にやります。

30S 仁木 はじめて来ました!!

42S 喜多 明徳 元気です!!

35E 佐竹 善仁 飯島 橋本 元気です!!

田 野 井

13E 相木 隆 元気です。

7E 河内 元気です。

6M 宮崎 元気です。

8M 工藤 陽史 元気です。

5M 田上 博雅 元気です。

14C 権手 久史 元気です。

13E 小林 正 元気です。

2E 湯浅 尋天 元気です。

22M 奥本 良博 元気です。

12E 阿南 高岡 元気です。

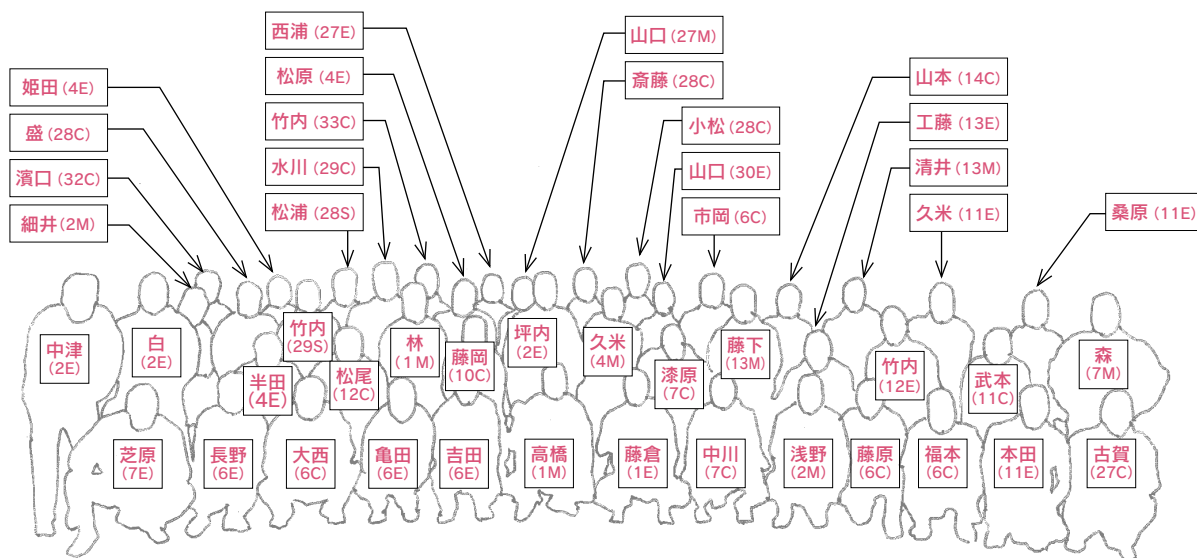
10E 阿南 高岡 元気です。

支部  
だより

# 悠久徳島支部より



令和5年11月18日(土)、第14回ゴルフコンペを開催しました(御所カントリークラブ)



## 悠久会ゴルフコンペへのお誘い

現役学生からOBの方々、参加お待ちしております!!  
(登録メンバー = 約120名)

**開催日** 年2回

5月中旬～後半

10月後半～11月前半

**連絡先** 下記の幹事宛でメール願います。

- 松尾 有 二 (12C) : [y.matsuo@inoue-naruto.jp](mailto:y.matsuo@inoue-naruto.jp)
- 古賀 聖 大 (27C) : [seidai@sepia.ocn.ne.jp](mailto:seidai@sepia.ocn.ne.jp)
- 星場 俊 之 (30M) : [t.hoshiba@okabekikai.co.jp](mailto:t.hoshiba@okabekikai.co.jp)
- 森 正 志 (7M) : [masadonndonn@yahoo.co.jp](mailto:masadonndonn@yahoo.co.jp)



## 阿南高専卒業生数

( )内は女子数で内数 令和5年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科 機械コース	電気工学科 電気電子工学科 電気コース	制御情報工学科 情報コース	土木工学科 建設システム工学科 建設コース	化学コース	合計
昭和42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
令和元	53	40 (7)	33 (7)	33 (5)	23 (6)	24 (5)	153 (30)
2	54	32 (3)	35 (7)	38 (8)	20 (7)	24 (5)	149 (30)
3	55	40 (4)	38 (5)	38 (3)	22 (8)	21 (7)	159 (27)
4	56	36 (8)	37 (4)	36 (5)	23 (7)	20 (11)	152 (35)
合計		2,965 (63)	2,130 (134)	1,108 (302)	1,687 (226)	114 (39)	8,004 (764)

### 令和5年度卒業予定者(57回)

( )内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和5年度卒業予定者	57	39 (5)	27 (4)	36 (2)	25 (5)	28 (11)	155 (27)

(注) ① 平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。② 平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。  
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

## 総会のお知らせ

2024年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

※但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により中止になる可能性があります。開催の有無については決定次第、阿南高専ホームページ上でお知らせいたしますので、事前にご確認ください。

### 講演会

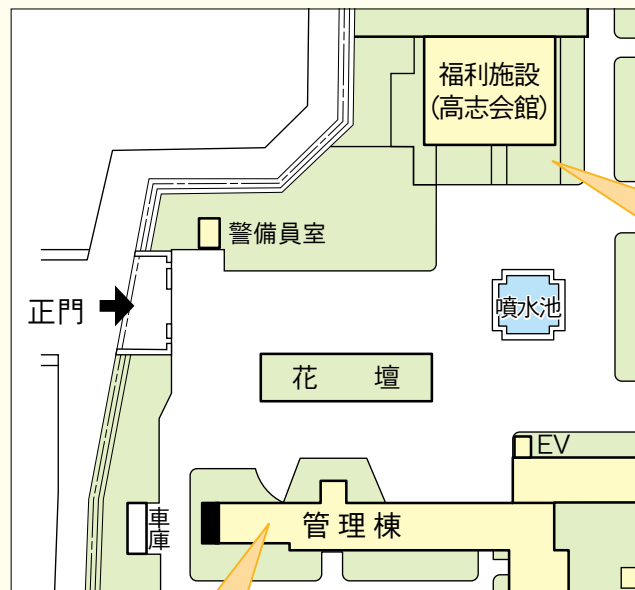
10:30 受付  
11:00～12:00 講演会  
演題：脱炭素社会実現に向けた  
環境貢献ソリューション  
講師：大和エネルギー株式会社  
代表取締役 東 武氏 (17C)  
場所：阿南工業高等専門学校 管理棟 3F会議室

### 総会

12:00～12:30 総会  
12:30～14:00 名誉教授の先生方との合同食事会  
場所：阿南工業高等専門学校 高志会館

### 会場案内

駐車は噴水の周りの空いているスペースをご利用ください。



講演会・総会  
3F会議室 11:00～12:30

食事会  
12:30～14:00

## 寄付金募集のお知らせ (阿南高専悠久同窓会)

悠久同窓会会則第13条（本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる）の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送り先 阿南市見能林町青木 265  
阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合 郵便局振込  
コンビニ振込  
銀行振込 徳島大正銀行 阿南支店 普通  
口座番号 8594442  
阿南工業高等専門学校悠久同窓会